

# 図書館だより

# 2月号

東峰学園（中学部） 梶原弥生

2月になりました。1年で1番寒い時とされています。でも木の芽や花のつぼみは少しずつふくらみ始めています。立春が過ぎ、暖かい日には、春がそこまできているように感じられます。

## 猫の本～2月22日は「にゃん にゃん にゃん」の猫の日です。

### 「トンちゃんってそういうネコ」(MAYA MAXX/作)

トンちゃんはネコ。シマシマのネコ。ゲンキなネコ。けどトンちゃんは足がひとつない・・・。

### 「猫のお告げは樹の下で」(青山美智子/著)

ふと立ち寄った神社で出会った、お尻に星のマークがついた猫。ミクジの葉っぱの「お告げ」が導く、7つのやさしい短編集です。失恋した相手を忘れた美容師。中学生の娘と仲良くなりたい父親。なんでもない言葉が「お告げ」だと気付いた時、思い悩む人たちの世界ガラッと変わります。

### 「十年屋7 タイムセールいたします」(廣嶋玲子/作)

十年屋のマスターは、見かけによらず、片付けが大の苦手です。物があふれかえる店内に、カラシの堪忍袋もとうとう大爆発！！十年屋史上初のタイムセールが始まります。

### 「旅猫レポート」(有川浩/著)

野良猫のナナを助け、一緒に暮らし始めたサトルですが、ある事情でナナを手放さなければならなくなりました。引き取り手を探すため、サトルとナナは、最後の旅に出ます。

### 「猫を処方いたします。」1・2巻(石田祥/著)

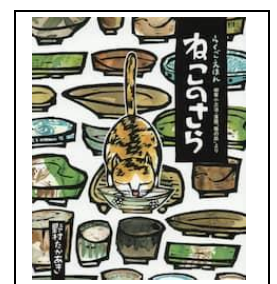
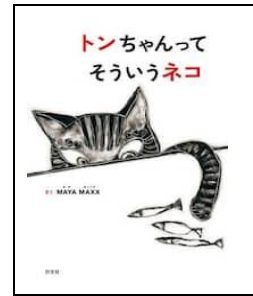
「中京こころのびょういん」には、心の不調を抱えた患者さんが訪れます。そこにはニケ先生と看護師の千歳さんがいます。ニケ先生は、患者さんの話をきくと「猫を処方します」と言い、キャリーケースに入った灰色の猫を一週間お世話するように言いました。

### 「私はネコが嫌いだ。」(よこただいすけ/作・絵)

「お父さん、このネコかってもいい？」娘の拾ってきた小さな黒ネコが突然、我が家の一員になりました。小さな命との出会いと別れの物語です。

### 「ねこのさら」柳家小三治・落語「猫の皿」より

道具屋が江戸に帰る途中で立ち寄った茶店で、猫がご飯を食べていたのは、絵高麗の梅鉢という高価な茶碗。道具屋はどうかして手にいれようとするのですが・・・。



## 新刊案内

### 「わたしに続く道」(山本悦子/作)

小学5年生の少女リイマは、ケニア人の父と日本人の母の間に生まれました。しかし、両親は離婚し、母は日本人と再婚しました。リイマが50メートル走で学年1番の記録を出すと、「黒人だから速いだけ」と言われます。見た目で決めつけられ、自分は日本人だという確信がゆらいでいきます。そんな時、実父の故郷ケニアに行くことになりました。

### 「ある日、戦争が 始まった」(イエバ・スカリエツカ/著)

2022年2月、ウクライナの少女イエバは12歳の誕生日を迎えました。そのわずか10日後、ロシアのウクライナ侵攻が始まりました。爆撃を受け、地下へ避難したイエバは日記を書き始めました。爆撃の恐怖、故郷を離れる決断など、アイルランドに逃れるまでの67日間は綴られています。

### 「カーテンコールは きみと」(神戸遙真/作)

中学生になった律希は、あこがれの演劇部に入部しようとした。ところが顧問から「演劇部、なくなるんじゃないかな？」と衝撃的な言葉を聞きます。部員が足りず廃部寸前なのです。

### 「アップサイクル!」(佐藤まどか/作)

文、紫月、王ちゃん、夏休みの自由研究で集まった、三人の目の前にあるのは、使われていないミシンと黒板。これをアップサイクルしたらどうなるのか。アップサイクルで起業を目指す、中学生三人の物語です。(アップサイクルとは、捨てられるはずの製品に新たな価値をあたえて再生することです)

### 「ルール!」(工藤純子/著)

「スマホを返してもらうためには、職員室に行き、先生の前で反省文を読み上げなければいけません。それが学校のルールだからです。」

(本文より)校則は何のためにあるのか。中学生の手で校則を見直すことが出来るのでしょうか。

「小説・ブルーロック戦いの前、僕らは。ニ子・國神・氷織」(金城宗幸/原作)

「転生したらスライムだった件」21巻(伏瀬/著)

「君たちはどう生きるか」(宮崎駿/原作)

「毒もみのすきな署長さん」(宮沢賢治/作)

「伝記を読もう 丸木俊 「原爆の図」を描き世界に戦争を伝える」

「ぼくらは星を見つけた」(戸森しるこ/作)

「金曜日のあたしたち」(濱野京子/作)

